

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1010 号	氏 名	黄 玉哲
論文審査担当者	主 査 山 田 充 彦 副 査 多 田 剛 ・ 樋 口 京 一		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>スルファチドは血清リポ蛋白質を構成するスフィンゴ糖脂質の主要成分であり、血清スルファチドは動脈硬化の進展、血液凝固、血小板凝集に影響することが示唆されている。血液透析患者では透析年数に従い血清スルファチド値の低下が顕著になり、心血管病と関連する可能性が報告されている。本研究では3年間の追跡研究により透析患者における時間依存性の血清スルファチドの低下現象を確定させることと、血清スルファチド値の低下機序の解明を目的とした。</p> <p>信州大学腎臓内科関連病院の外来維持血液透析患者で除外基準に抵触しない95名を解析した。血清サンプルは、症例登録時、18か月後、36か月後の時点で採取した。血清スルファチド測定法としては、血清サンプルより脂質抽出を行った後に、スルファチドを可溶性のリゾスルファチドに変換し、マトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型質量分析器 (MALDI-TOF MS) にて含有量を測定した。スフィンゴイド種により7種類のスルファチドが検出されるため、その総和を血清スルファチド値と定義し計算した。血清スルファチド値と関連する因子の解析のため、様々な臨床データとともに統計解析を行って検討した。</p> <p>その結果、黄は以下の結論を得た。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 透析患者の血清スルファチド値の平均値は健常者の50%未満であり、心血管病の既往がある患者では既往の無い患者と比較し有意に血清スルファチド値が低くなることが再確認された。2. 3年間の追跡調査により、血清スルファチドは時間依存性に有意に低下し、酸化ストレスマーカーであるMDAは時間依存性に有意に上昇することが明らかとなった。3. 多変量線形解析では、時間依存的な血清スルファチド値の推移と有意に関連するのは、MDAの推移のみであることが判明した。 <p>これらの結果により、酸化ストレスの上昇は透析患者における血清スルファチド異常の増悪因子になりうる可能性が示唆された。血清スルファチド値異常や酸化ストレスは血液透析患者の心血管病発症に関連する可能性があるため、それらに対する有用な治療法の開発が必要である。本研究は、透析患者における血清スルファチド異常に対する新たな治療法の開発のための有益な情報を提示していると考えられる。</p> <p>よって、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			